

2005年 6月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務

2005年 5月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度	3 ~ 5 月 累 計
百貨店業	0.0	1.5
スーパーマーケット業	1.2	1.9
卸 売 業	5.2	2.8
その他事業	12.7	13.7
連結合計	2.5	0.1

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度		3 ~ 5 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	1.7	2.9	1.7	4.0
梅田店	0.2	0.6	2.2	2.1
東京店	0.7	5.3	2.7	1.3
京都店	2.8	7.7	2.3	7.9
山科店	5.0	-	0.6	-
神戸店	2.5	3.2	2.8	4.9
新長田店	7.2	-	8.6	-
須磨店	3.6	-	5.0	-
芦屋店	5.6	-	5.0	-
札幌店	3.9	5.7	4.6	5.4
直営10店舗計	0.3	0.1	1.1	1.6
博多大丸	1.7	14.4	3.4	11.0
下関大丸	1.6	2.5	2.7	2.0
高知大丸	1.9	3.0	2.2	4.9
今治大丸	1.9	-	2.8	-
百貨店業合計	0.0	-	1.5	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度	3 ~ 5 月 累 計
紳士服・洋品	0.6	0.4
婦人服・洋品	0.8	0.8
子供服・洋品	6.7	6.7
その他の衣料品	4.9	2.5
衣料品計	0.1	1.1
身の回り品	0.8	1.2
家具	2.8	1.9
家電	49.0	32.7
その他の家庭用品	8.4	3.0
家庭用品計	10.1	5.0
食 料 品	0.7	1.1
食堂・喫茶	1.7	3.0
雑 貨	2.9	1.7
サ ー ビ ス	3.1	2.4
そ の 他	28.9	7.0
合 計	0.3	1.1

3. 概況

1) 百貨店業

- ・ 5月の百貨店業の売上高は、直営店はゴールデンウィーク商戦が盛況であったものの以降は鈍化、また本月は土曜日が対前年 1日減であった影響もあり 0.3%の微減となった。一方、関係百貨店は堅調に推移したことから、百貨店業全体では同0.0%増となった。
- ・ 直営主要店の店別売上高は、札幌店は13ヶ月連続、京都店は6ヶ月連続で前年を上回ったほか、梅田店は催事の好調が寄与し4ヶ月振りに前年を上回った。
- ・ 商品別では、婦人服は特選ブランドは苦戦したがプレタポルテ、ヤングアダルトファッションが好調でコンパクトジャケットやニット、パンツなどが活発に動き、婦人洋品はUVケア対応の帽子、手袋などシーズンアイテムが伸ばした。紳士服・洋品はヤングアダルトファッションを中心にジャケットやTシャツ、ジーンズが好調であった。家電は前年の薄型デジタルTV販促の反動により大幅減となった。雑貨は依然好調を維持する化粧品のほか、宝飾品・時計に動きがあった。
- ・ 博多大丸は食品改装(2月)効果とともに衣料品も堅調であったことから対前年1.7%増、高知大丸も販促強化が奏効し同1.9%増と前年を上回った。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、対前年1.2%増であった。地区別では関東地区は既存店ベースで前年を上回ったことに新店効果の持続も加わり同2.3%増、関西地区は同0.1%の微減となった。
- ・ 卸売業の大丸興業の売上高は、畜産品やホームセンター向けの資材が好調であったことにより対前年5.2%増であった。
- ・ その他事業では、建装事業の大丸装工や飲食店業のレストランピーコック、人材派遣業のディンプルなどが伸ばした。

お問い合わせ先	株式会社	大丸	グループ本社	広報・IR部
		TEL	06-6281-9002	
		FAX	06-6245-1343	